

第 28 期東京都立図書館協議会 テーマ案の背景

教育施設としての図書館を取り巻く状況

生涯学習の状況

- 図書館等を使った生涯学習を「行った」人 12.9%
 - ・ 実際に行った生涯学習の形式 第 1 位「公民館など公的機関での講座や教室」(39.9%)
 - 図書館等を使った生涯学習を「行いたい」人 16.8%
 - ・ 行いたい生涯学習の形式(全年齢層) 第 1 位「公民館など公的機関での講座や教室」(37.7%)
 - ・ 行いたい生涯学習の形式(若年層) 20 代：第 1 位「職場の教育、研修」(46.5%)
30 代：第 1 位「自宅での学習」(35.9%)
- ※「H27 教育と生涯学習についての世論調査」(内閣府)より

労働者の自己啓発の状況

- 自己啓発を行った者の割合 正社員 45.8%、正社員以外 21.6%
 - ・ 自己啓発の実施方法 第 1 位「ラジオ、テレビ、専門書、インターネット等による自学、自習」
(正社員 49.4%、正社員以外 52.9%)
 - 自己啓発を行う上で何らかの問題があるとした者の割合 正社員 78.4% 正社員以外 70.3%
 - ・ 自己啓発を行う上での問題点 第 1 位「仕事が忙しくて自己啓発の余裕がない」
(正社員 59.3%、正社員以外 39.4%)
- ※「H28 能力開発基本調査」(厚生労働省)より

学校教育の変化

- 学習指導要領などにおける「主体的・対話的で深い学び」「ICT を活用した学習」の推進
 - ・ アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けた取組を実施している学校
小学校 48.9% 中学校 45.7% 高校(全日制普通科) 43.9%
 - ・ 普通教室の電子黒板整備率 21.9%
 - ・ 普通教室の校内 LAN 整備率 87.7%
- ※「H27 公立小・中学校における教育課程の編成・実施状況調査結果」
「H27 公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査結果」
「H27 学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」より

～都立図書館の状況～

- 様々な学習形態への対応として、グループ閲覧室や個人閲覧席の設置、パソコン利用可能席の拡大、全館で無料 Wi-Fi の提供を行っている。一方で、「個人での深い学びやグループ・団体での学習活動を支援する環境が、十分に整っているとは考えられない」(平成 29 年 2 月 第 27 期提言より)との指摘も受けている。
- 中央図書館は築 45 年を経過し、老朽化の課題を抱えている。
- 来館者数は、中央図書館では減少傾向、多摩図書館はリニューアル後、増加傾向にある。

東京都の施設としての図書館を取り巻く状況

『都民ファーストでつくる「新しい東京」～2020 年に向けた実行プラン～』（平成 28 年 12 月策定）
が目指すもの

3つのシティの実現（セーフシティ・ダイバーシティ・スマートシティ）

○ダイバーシティの実現

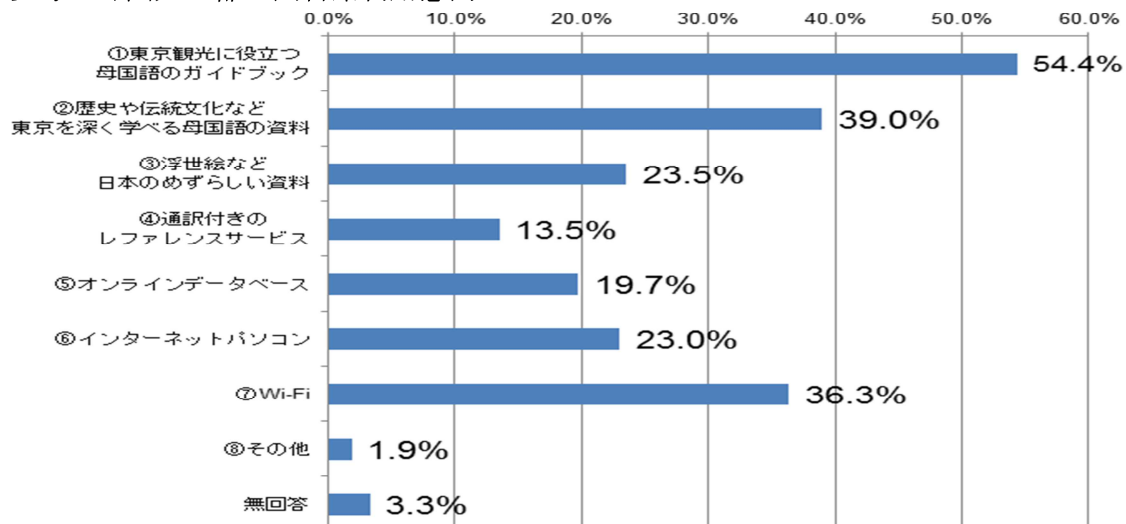
「女性も、男性も、子供も、高齢者も、障害者も、誰もが希望を持っていきいきと生活できる、
活躍できる都市」

「多様性が尊重され、温かく、優しさにあふれる都市」

○スマートシティの実現

「世界に開かれた国際・観光都市」（政策の柱 7）

参考：外国人の都立図書館利用意向について



※「都立中央図書館潜在利用意向調査」外国人向け調査結果より（H27 年調査）

～都立図書館の状況～

- 来館できない方へのサービスとして、Web 上でのレファレンスサービスの受付や、各種情報提供（テーマ別調べ方案内リストやデジタルコンテンツ）、郵送による複写サービス等を実施している。
- 障害がある方へは、視覚障害者サービス（録音資料・点字資料提供、対面音訳等）をはじめ、聴覚障害がある方への筆談対応、車椅子使用可能なトイレ設置等を行っている。
- 子育て中の方へは、親子トイレや授乳室の設置（多摩図書館）、また各種イベント時の託児サービスも導入している。
- 日本語を母語としない方へは、館内各種掲示の多言語化、デジタルサイネージでの 4 か国語による情報提供を行っている。